

未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 5月号

丸ごと愛して！！

保護者の皆さんは、子どもを丸ごと愛しているでしょうか。子どもたちのよい部分はもちろん、ダメなあと感じたり、こう変わって欲しいと思っている部分ですら、愛おしく思っているらっしゃいますか。そんな心持ちで子どもと向き合っているらっしゃるとしたら、それは、お子さんがありのままで受け止めてもらえているということに他なりません。

僕が受け持った3年生の話をしましょう。僕は6年目で初任校での最後の年、納得できる学級経営がしたいと強く思っていました。それで、前年度組ませていただいた「カリスマ」のような先生に教えていただいたことを実行したり、まねられるところをまねたりして、学級経営をすることにしました。

そうしたことで、学級は、とても整然とした雰囲気、毎日の授業もとてもやりやすくなりました。授業が始まれば、僕がいなくても子どもたちは、教科書を開いて読んだり、漢字を練習したりして過ごすことができました。僕は、そんな子どもたちがとてもかわいかったし、なんて頑張るよい子たちなんだろうなんて、浮かれていました。

でもそれは間違いでした。

その年の冬、大雪が降って。校庭にも何十センチもの雪が積りました。学校の敷地を雪かきして、少し遅れて教室に入ると、子どもたちは、国語の教科書を開いて、それぞれに学習をしています。僕が入っていくと、手を止めて「おはようございます。」とあいさつしてくれます。

その後も、普通に朝の会を行い、そのまま予定された「国語」の授業になっても、だれひとりとして聞こえてくるはずの声を発しようとはしませんでした。僕は、我慢できなくなって「今日はさあ、雪が積もったよね。折角だから、みんなで雪で遊ぼうか?!」と言いました。返ってきた子どもの言葉は、「えっ、いいのー?!」だったのです。

僕のやり方は間違っていたと痛感した瞬間でした。3年生の子どもたちが、雪の積もった校庭を前にして「先生、遊ぼうよ。」と言えないってどういことでしょうか。それは、子どもたちが、僕の学級経営のやり方に「過剰適応」していたからです。

言い訳ではないですが、子どもたちと僕の関係は、とてもよかったと思います。なんやかやと僕の周りには子どもたちがいつも集まっていました。休み時間にも全員で遊んだり、外遊びをしたい子どもと遊んだり、時には教室でおしゃべりをして

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和5年4月28日発行



過ごしたりもしました。そういった関係性の中で、子どもたちは「僕が理想」とする姿に合わせようと、期待に応えようと無理をしていたのです。自分の思いや願いを、封じ込めて。

僕は、これこれこういう子に育てたいと躍起になっていたと思います。言葉として書けば、「子どもたちを引き上げる」、そんなイメージでした。これは、もちろん必要なことですが、子どもたちの実態や思いを無視して、「こうあってほしい」と思い描く姿に、当てはめようとしていたのではないかと、今は思います。そんな中で、自分の理想に合っている子どもがよくて、そうでない子はダメだと僅かでも思っていなかったかと問われると、そうでないと言う自信がありません。

保護者の方が、いつでもどんなときでも、ここに戻ってくれば大丈夫と安心できる、子どもの安全基地として機能することが、子どもの成長にとってとても大切なことです。そして、その安心感の源は、自分が受け入れられている、愛されているという実感なのです。

いつそやの僕のように、自分の理想に沿う子どもだけを愛していませんか。沿わないところを許せないと思いませんか。そうなら、正しいからと、必要以上に強く叱責したり、罵倒してしまったりすることになりかねません。特に、やってしまった行為でなく、行為主体の子どもを、「だから、あなたはダメなのよ。」なんて否定してしまっただおぼえがあるのなら、改めて、子どもの大事さや尊さとは、ご自身が考える「理想の姿でいる」となるのかどうか、お考えいただく必要があります。

子どもは、たっぷりの愛情という栄養をもらえれば、よりよく生きようとします。どんなお子さんでも、誰でもです。まずは、そこを理解しましょう。お家ではとてもよい子で、学校や外では・・・ということであれば、子どもとの関わりを見直す必要があるかもしれません。

また、保護者の皆さんと子どもたちは、別の人格です。保護者の価値観は当然伝える必要がありますが、成長とともに子どもたちに自己選択・自己決定をさせること、そして、それを尊重することも忘れて欲しくありません。

鶴嶺小学校の保護者みんな、子どもを丸ごと愛して、子どもの声に耳を傾けていきましょう。保護者同士や地域の方々お互いにつながって、その「つながり」の中で子育てしていきましょう。きっと、大変なとき、苦しいとき、支えてもらえるはず。子どもたちは、保護者だけでなく、様々な大人との関わりの中で育つものなのです。